

2020年に国連事務総長からの連絡が来てから3年。この度『持続可能な開発に関するグローバルレポート（GSDR 2023）』が完成しました。コロナ禍で、グローバルに選ばれた15人の仲間がほぼ全てオンラインでコーディネートしながら執筆活動を行うという初めての経験。個人的には、2021年に父が、2022年には母が他界し、厳しい中で執筆を続けた、思い入れの深い報告書です。

SDGsが中間年に差し掛かり下した評価は、ほぼ全ての目標で、2030年までの達成は極めて厳しいというものです。しかし、希望も見出しました。世界各地で、SDGs達成へ向けた変革が起こり始めています。いかに変革の種をまき、加速させていくか。そのエッセンスをまとめ、変革が起こる「Sカーブ」というモデルを提示しました。このモデルを参照することで、行動の現状を客観的に評価し、今後の見通しを考えることが出来るでしょう。そのために必要なのは、科学と政策と社会の連携です。

SDGs達成へ向けた後半戦の指針として、GSDRをぜひご活用ください。各ステークホルダーへの処方箋は、今後作成していきますので、ご期待ください。

2023年9月12日

蟹江憲史